

あなたの街の部活動づくり「運動部活動の地域移行」セミナー  
～第2回京都府地域運動部活動説明会～

<概要>

- 1 主 催 京都府 京都府教育委員会 公益財団法人京都府スポーツ協会
- 2 日 時 令和4年9月5日（月） 13時20分～16時40分
- 3 場 所 京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」
- 4 対 象 各市町村のスポーツ所管課、教育委員会、体育・スポーツ協会、総合型地域スポーツクラブ代表、スポーツ少年団代表
- 5 内 容
  - (1) 開 会  
 挨拶 京都府文化スポーツ部スポーツ振興課 課長 村井 伸也
  - (2) 基調講演Ⅰ・Ⅱ  
 演 題 『地域移行の取組について』  
 講演Ⅰ講師 茨城県つくば市教育局学び推進課 指導主事 永岡 範之  
 講演Ⅱ講師 埼玉県白岡市教育委員会教育指導課 指導主事 石島 隆志
  - (3) 自治体別意見交流  
 テ ー マ 『わたしの街の部活動づくりをスタートするために』  
 コーディネーター 立命館大学スポーツ健康科学部学部長 教授 長積 仁  
 アドバイザー 茨城県つくば市教育局学び推進課 指導主事 永岡 範之  
 埼玉県白岡市教育委員会教育指導課 指導主事 石島 隆志  
 京都府文化スポーツ部スポーツ振興課 課長 村井 伸也  
 京都府教育庁指導部保健体育課 課長 柏木 佳久  
 公益財団法人京都府スポーツ協会 事務局次長 比護 信子
  - (4) 閉 会  
 挨拶 京都府教育庁指導部保健体育課 課長 柏木 佳久

6 日 程

13:00 13:20 13:30		14:15 14:25		15:10 15:20		16:20 16:30 16:40	
受付	開会	基調講演Ⅰ	休憩	基調講演Ⅱ	休憩	ワールドカフェ方式による 自治体別意見交流 及びリアルタイム助言(※)	まとめ 閉会

(※)意見交流では、各自治体のテーブルとコーディネーターをチャットで繋ぎ、交流とアドバイザーからの助言を同時に展開

7 配付資料 別添のとおり

8 自治体別意見交流の質疑応答の概要

〔Q1〕白岡市の地域部活動の管理運営を担う委託先は、具体的にどのようなことをしているか。

〔A1 白岡市〕

指導業務全般、日程調整管理、入会手続き、謝金支払い、施設の施錠管理を業務委託し、契約を結んで実施した。

〔Q2〕白岡市の地域部活動は、なぜ「学校管理下外の教育活動」と位置付けたのか。

〔A2 白岡市〕

地域に委ねていくと、引率業務に先生がつかないなど、学校が関係しない状態を整えていくことになるため学校管理下外とした。「教育活動」という言葉を残したのは、クラブチーム化ではないことをメッセージとしているため。

中学校部活動と地域部活動の比較（R3） <span style="float: right; font-size: small;">                         基調講演Ⅱ 埼玉県白岡市                          『地域移行の取組について』                     </span>		
	中学校部活動	地域部活動
位置付け	学校管理下の教育活動ではあるが教育課程外の活動	学校管理下外の教育活動
活動内容	生徒による主体的な活動	生徒による主体的な活動
指導者	教職員	地域部活動指導員 ※教職員の兼業兼職可
活動日数	平日4日以内 土日1日以内	土日2日以内 ※中学校部活動と合わせて週5日以内
活動場所	学校施設	学校施設
鍵の管理	学校（教職員）	管理団体（地域部活動指導員） ※管理方法等は教育委員会と協議
手当・謝金	2,700円/1日 (休日2時間1分以上)	1,228円/1時間 ※原則、1日3時間以内
生徒の保険	日本スポーツ振興センター 災害共済給付制度	スポーツ安全保険
指導者の保険	労務災害 等	スポーツ安全保険
責任の所在	校長、設置者	管理団体、設置者

10

〔Q3〕つくば市の地域部活動には、責任の所在に関して何か位置付けがあるのか。

〔A3 つくば市〕

学校管理下外で実施している事例が多い。みどりの学園義務教育学校は企業連携のため企業に責任の所在がある。谷田部東中学校はPTAや保護者で組織された理事会があるため市民団体という形で責任の取り方を捉えている。大学連携は、教員が見守りにについているので学校管理内となっている。

〔Q4〕本町でも第一歩として地域部活動の企画会議を立ち上げてスタートしたいが、協議会などの組織はどのような構成メンバーか。また、具体的な方向性は見いだせているのか。

〔A4 白岡市〕

地域部活動企画委員会は、PTA、学校、行政職員（市スポーツ所管課、学校教育所管課）、公募として総合型地域スポーツクラブ（以下、「総合型クラブ」と言う。）とスポーツ少年団の代表にも入っていただいた。具体的な方向性は、資料に掲載のとおり。提言としてまとめており、必要であれば公開し送付もできる。

〔A4 つくば市〕

教育委員会学び推進課、スポーツ振興課、スポーツ協会等のメンバーで、行政の中にプロジェクト組織を作っている。また、校長会で主体的にプロジェクトチームを立ち上げていただき、校長、教頭、教務で構成されているところに、行政も一緒に入って話をしている。

〔Q5〕学校管理下ではないが教育活動とするような方向性を京都府はどのように考えるか。

〔A5 京都府教育庁保健体育課〕

責任の所在など運営上の難しい課題が多いと承知している。けがをした際の補償は、国も受益者負担で保険加入をという方向性を出している。様々な課題を今後も継続して検討していきたい。

[コーディネーター]

各地域の中での協議は、責任の擦り付け合いが主題ではないと考える。各地域でのあるべき姿はどれが一番望ましいか、それを整えるためにどのような協力体制を築けばいいのかといった、創造的な発想で議論を進めていくことが良いと考える。

[Q6] 中体連や高体連の大会参加について、具体的な方向性は出ているか。

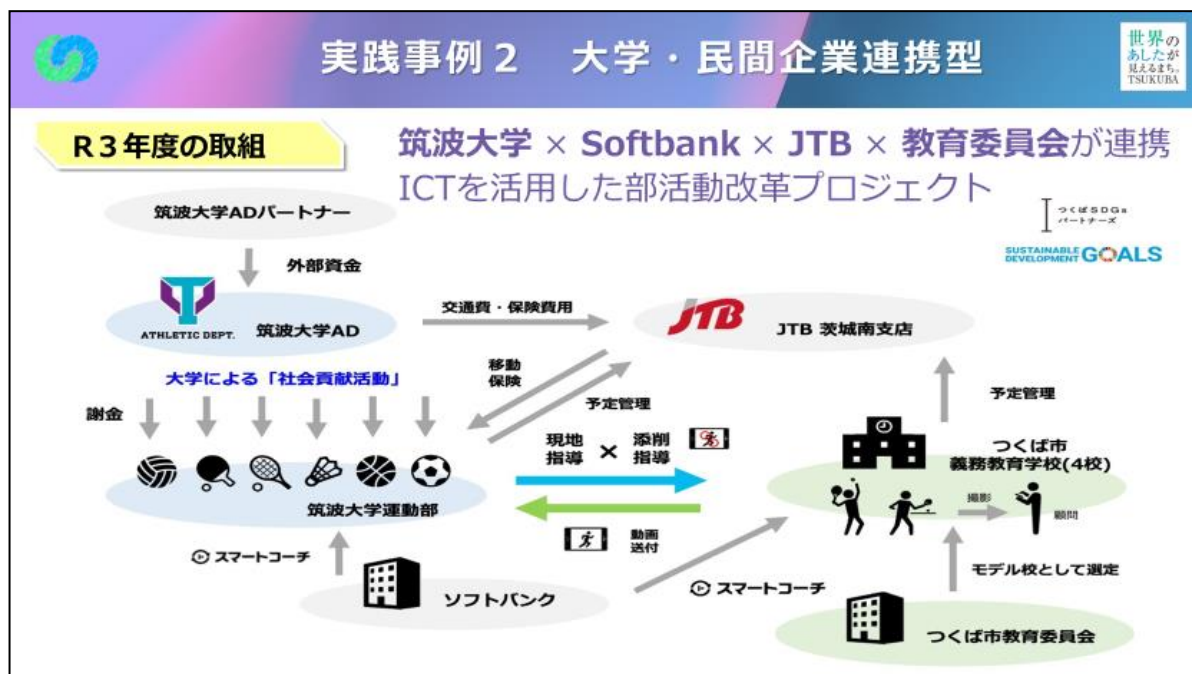
[A6 京都府教育庁保健体育課]

日本中体連では、令和5年度の全国中学校体育大会からクラブチームの参加を認めることが決定しているが、ブロック大会や都道府県大会については、まだ体制が決まっていない。課題として、大会に参加するクラブチーム数が把握できないと大会日程が組めなかったり、クラブチームをブロック大会から参加させるのか、もっと上位の大会から参加させるのかといったこともある。まずは、クラブチームの実態を調べ、どのような方策が取れるのかを考えていくことが必要だと考える。なお、高体連については、地域移行のターゲットを公立中学校としていることから、現段階では、具体的な検討は始まっていない。ただ、国の提言にも示されているように、高校の働き方改革も共通の課題である。

[Q7] つくば市の連携型に関わっている団体や企業との情報共有はどのようにされているか。今後の仕組みをどのように検討されているか。

[A7 つくば市]

事例で紹介した企業や、スポーツクラブ同士が連携・共有することは、学校とスポーツクラブ、学校と企業という関係から生まれてきた背景があるため、今は特にない。今後は行政のプロジェクト組織の会議に、大学やスポーツ団体、企業を呼んで、同じ土俵で議論をしていくことを考えている。そのような中で、企業同士、団体同士も繋がっていくというビジョンを持っている。



[コーディネーター]

各地域では、今後、協議会などの話し合いの場を持つところからスタートすると思われるが、その場が、地域の実情や実施可能な内容・条件を議論する場になると考える。意見交流では、教育委員会内だけでなく、校長会、教職員、保護者、地域のスポーツ団体等の意見を聞く場を設け、アドバイザーのような方をお招きして、地域の実情を共有しながらアドバイスをいただき、方向

性を見出したいという自治体もあった。スポーツ庁では、アドバイザーの予算を計上するようなことも示されており、それらも活用しながら、各地域でできることは地域で解決していくようにも進めてほしいと感じた。

〔Q 8〕各地域で議論を進めていくため、背中を押していただくようなメッセージを。

〔A 8 つくば市〕

この大改革の実施にあたっては、昨年度の校長会でもかなり色々な意見をいただき、不安もあったが、改革をやるなら反発が出るのは良いことだ、むしろ反発がないと改革ではないと考え、今年度は中学校を1校ずつ訪問し説明をしている。その中で、先生方の意識が「どうやればいいのか」という前向きに変わってきた。やはり、学校長の力は大きく、丁寧に対応することが今後大きいと考えている。部活動の代わりでなく、新しいスポーツ環境を作るという視点は、私達も同じであり、そういう新しい視点で本日のような前向きな議論や対応を重ねていくことが、時間はかかることだが大事なことだと考える。同じ悩みを抱えている自治体が多くあるが、自治体同士で連携共有して、新しい知恵を出し合うことも非常に有効だと思う。

〔A 8 白岡市〕

地域部活動に課題が多いことが課題であり、そのことに共通認識を持って、それぞれの立場で当事者意識を持つことが大切だと思う。正解はおそらくなく、改革をスタートすることで、必ず批判も出るが、それでもスタートをして、少しずつ改善していくことによって、ハードルも必ず下がる。京都府の横や縦の連携の中で、子どもたちのために改革を進めていってほしい。

〔A 8 京都府文化スポーツ部スポーツ振興課〕

各市町村でどのように地域移行に対するスキームを作り上げていくのがポイントである。指導者不足が課題になるが、京都府としては、例えばプロチームや大学、企業チーム等へ打診をしながら、指導者バンクのようなものがないかと動き出しており、サポートをしていきたいと考えている。

〔A 8 京都府教育庁保健体育課〕

地域共通の課題もあれば、個別の課題も多くある中で、まずは各地域で意識を共有していただきたい。府教育委員会では、国の情報をしっかりフォローしながら、サポートできるようにしていきたいと考えている。長いスパンでの大きな改革になるが、協力をいただきたい。

〔A 8 京都府スポーツ協会〕

地域スポーツでも大きな改革が行われており、総合型クラブでは組織の強化という形で登録認証制度が、すでにスタートしている。総合型クラブの知名度を上げ、組織を強化し、信頼性を高めていくことが必要である。また、この地域部活動は、地域によって課題は様々であり、移動手段や指導者確保など、組織の強化とともにシステムを作っていく必要がある。これらは行政の力添えがないと作っていけないということもあり、各行政機関がアドバイスをしていただきながら、地方のスポーツ基本計画にも盛り込んでいただき、皆さんと一緒にやっていきましょうという協力をお願いしたい。

(以上)